

報告書

THE FUTURE OF LIFE

生命の未来～先端技術とわたしたちのこれから～

Nobel Prize Dialogue
Tokyo 2025



日本学術振興会

開催概要	p.2
主催者開会挨拶	p.3
プログラム	p.5
ダイアログの一日	p.6
パネリスト	p.9
参加者データ	p.13
アンケート結果	p.14
主催者	p.15
運営委員会	p.16
パートナー企業等	p.17
主催者広報活動実績	p.18
報道実績	p.19
制作物	p.22
ノーベル・ウィーク・ダイアログと日本開催の経緯	p.23

当日の様子は以下の URL からご覧いただけます。
https://www.youtube.com/live/-g_vKw-4wrs



ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2025 は、若手研究者や産業界を含む広く一般を対象に、国内外のノーベル賞受賞者 7 名を含む 22 名の著名な研究者・有識者に登壇いただき、公開での講演やパネルディスカッション等を通じた科学と社会との対話を実施したものです。学術・科学技術への社会の関心・理解度を高め、科学技術・学術の振興に寄与することを目的としています。当日は、約 900 名の参加者にご来場いただくとともに、インターネットによるライブ中継を行い、世界中の視聴者に議論の様子が配信されました。

(https://www.youtube.com/live/-g_vKw-4wrs)

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京は、ノーベル財団の広報を担うノーベル・プライズ・アウトリーチがスウェーデンにおいて 2012 年から毎年ノーベル賞授賞式の前日に開催している一般向けの公開シンポジウム、“Nobel Week Dialogue”（ノーベル・ウィーク・ダイアログ）を日本で開催するものです。2015 年 3 月に、スウェーデン国外では初めてノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2015 として日本において実施されました。その成功を基に、2017、2018、2019、2022 と回を重ね、今回は 6 回目の開催となります。

本ダイアログは、日本学術振興会とノーベル・プライズ・アウトリーチとの密接な協力関係の下、開催されたもので、学術分野における日本の国際的なプレゼンスを高める上で重要な機会となりました。また、ノーベル賞受賞者をはじめとする著名な研究者・有識者が一堂に会し、社会一般と対話する貴重な機会となり、学術に対する社会の関心・理解度を高めるという目的を達成した画期的な科学コミュニケーション活動となりました。

本報告書は、本ダイアログの概要についてとりまとめたものです。社会一般の皆様には科学技術・学術に対する関心を高めていただくとともに関係者各位に広くお役立ていただければ幸いです。

1. 会議の名称

和文名：ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2025

英文名：Nobel Prize Dialogue Tokyo 2025

2. 主催

独立行政法人日本学術振興会／ノーベル・プライズ・アウトリーチ

3. 開催日時

2025 年 3 月 9 日（日）10:00 ～ 16:00

4. 開催場所

パシフィコ横浜 会議センター（神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1）

5. テーマ

和文名：The Future of Life 生命の未来～先端技術とわたしたちのこれから～

英文名：The Future of Life



杉野 剛

独立行政法人日本学術振興会 理事長

皆様、おはようございます。ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2025 に皆様をお迎えできますことを、大変光栄に存じます。本日この場にご臨席賜りました皆様に、謹んでご挨拶申し上げます。

スウェーデン王国特命全権大使 ヴィクトリア・リー閣下、あべ俊子文部科学大臣、そしてご来賓の皆様へ、心からの感謝とともに、歓迎の意を表します。

このたびのノーベル・プライズ・ダイアログの開催にあたりましては、ハンナ・シャーネ ノーベル財団エグゼクティブ・ディレクターをはじめとして、ノーベル財団及びノーベル・プライズ・アウトリーチの皆様から温かいご協力と多大なご尽力をいただきました。さらに、特別スポンサーである株式会社島津製作所様および三井不動産レジデンシャル株式会社様をはじめ、数多くの企業・団体の皆様より格別のご高配を賜りました。関係各位の皆様に、謹んで御礼申し上げます。

ノーベル・プライズ・ダイアログは、世界の第一線で活躍する研究者達との対話を通じて、科学技術における多様な価値あるものを広く一般の方々にご理解いただくための極めて有意義な場であると確信しています。こうして再び、この意義深い対話の場を主催できますことは、大きな喜びであり、身の引き締まる思いであります。また、ノーベル賞受賞者7名を含む22名の卓越した登壇者の皆様をお迎えできますことを、誠に光栄に存じます。

今日、私たちは、かつては夢にすぎなかったような数々の技術を、当たり前のように使い、その便利さを享受しています。しかしその一方で、科学技術の進歩に伴い、私たちがさまざまな課題に直面していることも事実です。本日のノーベル・プライズ・ダイアログが、皆様一人一人にとって、科学および技術、さらには私たちの未来についての新たな気づきやインスピレーションをもたらす機会となることを願っております。

ちなみに、このダイアログの名称は「ノーベル・プライズ・ダイアログ・東京」ですが、ここは東京でしょうか。いいえ、正確には横浜です。皆様もご承知の通り、横浜には日本の歴史において最も早く世界に開かれた国際的な港があります。だからこそ、現代の知性が世界各地から結集するこのダイアログの開催地として、横浜は最もふさわしい都市であると私は確信しております。何よりも、横浜港は言葉に尽くせないほどの魅力に溢れています。

本日は、会場にこれほど多くの若い方々をお迎えでき、大変心強く感じております。将来、皆さんこそが、今は夢のように思える未来のテクノロジーを実現してくださるのではないかと、大いに期待しております。そして、私を含めた”かつて若者だった”皆さまも、共に頑張ってまいりましょう。

本日のノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2025 が皆様にとってかけがえのない一日となりますよう、心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

※本稿はノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2025 当日の開会挨拶を翻訳したものです。



ハンナ・シャーネ

ノーベル財団
エグゼクティブ・ディレクター

Photo by Clément Morin

ご来賓の方々、ノーベル賞受賞者の皆様、ご登壇の皆様、そして本日よりご列席の皆様、「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2025」へようこそお越しくださいました。

日本での開催が今回で6回目を迎えましたことを、大変嬉しく思います。

1901年に第1回ノーベル賞が授与されて以来、これまでに1,000を超える個人や団体がノーベル賞を受賞してきました。そして3か月前、私たちはストックホルムにおいて昨年のノーベル賞受賞者たちを祝福いたしました。

物理学賞および化学賞においては、初めて人工知能が顕彰対象となり、歴史的な節目となりました。また、経済学賞は、国家間における繁栄の著しい格差が今なお存在する要因について、新たな知見を提示した経済学者たちに授与されました。生理学・医学賞は、生体の発現や機能において根本的に重要な役割を果たしていることが明らかにされたマイクロRNA研究に対して贈られました。文学賞は、ハン・ガン氏に授与されました。ハン氏は、この栄誉を受けた最初の韓国出身者となりました。そして、ノーベル平和賞は、広島と長崎の被爆者の方々からなる日本被団協に贈られました。

私たちは今、混迷の時代を生きています。人々は皆、自らの将来に不安を抱えています。世界規模で多くの重要な課題が議論されており、その結果は私たち一人ひとりの生活に大きな影響を及ぼすことでしょう。

ノーベル賞の創設者であるアルフレッド・ノーベルの理念は、卓越した業績を讃えるとともに、「人類にとってかけがえのない恩恵」をもたらした人々を顕彰することでした。ノーベル賞は、約125年にわたり、科学、人文学、そして平和的解決の重要性を示し続けてきたのです。そして今、私たちはそれらをかつてないほどに必要としています。

多くのノーベル賞受賞者にとって、「生命」を巡る知識への限らない渴望こそが、昼夜を問わず彼らの探究心を掻き立て、日々の研究を前進させる原動力となっています。それは、文学・科学・平和の分野に共通して見られるテーマでもあります。

実に、「生命とは何か」という問いの答えを、我々人類は何世紀にも亘って追い求め続けてきました。その探求の道における数々の画期的な業績が、ノーベル賞によって讃えられてきました。科学と技術が、私たちを取り巻く世界へのより確かな理解と結びつくことで、未来の暮らしがどのように変わっていくのか。私自身その可能性を学び、見届けていきたいと思っています。

本日より来場の方々の中には、多くの学生の方々がいらっしゃいます。皆様をお迎えできたことを心より嬉しく思います。ノーベル賞受賞者たちは常に、「未来は若い皆さんの手の中にある」と語り、学生の方々の参加がいかに重要かを繰り返し強調しています。今回のダイアログが、学生の皆様にとって科学や人文学の道を志すためのさらなる刺激となり、そして、将来私たちの暮らしをより良くするための、実証的かつ革新的な発見へとつながる学術的探求に挑まれることを、私たちは心より願っています。

開催にあたり、日本学術振興会の皆様には、多大なご協力を賜りました。杉野剛理事長、および影で支えてくださったチームの皆さまに心から感謝申し上げます。また、あべ俊子文部科学大臣にも感謝の意を表します。

「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2025」は、ノーベル・プライズ・アウトリーチと日本学術振興会の共催により、Nobel International Partners である ABB、EQT、Scania、Stegra のご支援を賜り開催されています。また、在日スウェーデン大使館に対し、格別の感謝を申し上げます。

※本稿はノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2025 当日の開会挨拶を翻訳したものです。

開会 オープニング

10:00 開会挨拶

独立行政法人日本学術振興会、ノーベル財団、文部科学省

未来

ノーベル賞受賞者が語る未来予想図

川合 眞紀、ウィリアム・D・フィリップス、アダ・ヨナット、モデレーター：アダム・スミス

人間らしさとは

生命の起源－私たちはどのようにして、ここまで来たのだろうか？

スパンテ・ペーボ

人間とは何か？

石黒 浩、リチャード・ロバーツ、山極 寿一、モデレーター：ジュリー・ジラス

挑戦

多様性とインクルージョンの推進

浅川 智恵子、インタビュアー：アダム・スミス

私たちが今、直面する課題

江間 有沙、ベルナルド・フェリンハ、アンドリュー・ファイアー、古澤 明、モデレーター：ジュリー・ジラス

持続可能な未来

吉野 彰

12:15-13:30 昼休憩

分科会

13:30

分科会 1

AI がもたらすインパクト

江間 有沙、ジェフリー・ヒントン*、
松尾 豊、アダ・ヨナット
モデレーター：アダム・スミス

*（登壇がキャンセルとなり、過去に録画したコメントを上映）

量子コンピューティングへの期待

古澤 明、波多野 睦子、
ウィリアム・D・フィリップス
モデレーター：アダム・スミス

分科会 2

未来のゲノミクスが導くところ

ジョセフ・エッカー、アンドリュー・ファイアー、
リチャード・ロバーツ、竹山 春子
モデレーター：ジュリー・ジラス

持続可能な課題解決に向けて

有村 俊秀、ベルナルド・フェリンハ、川合 眞紀、
エヴァ・オルソン
モデレーター：ジュリー・ジラス

14:50-15:15 コーヒーブレイク

未来に向けて

理想の未来

ジョセフ・エッカー、馬奈木 俊介、エヴァ・オルソン、リチャード・ロバーツ、モデレーター：アダム・スミス

ノーベル賞受賞者による総括ディスカッション

これからの創造

ベルナルド・フェリンハ、アンドリュー・ファイアー、ウィリアム・D・フィリップス、
リチャード・ロバーツ、アダ・ヨナット、モデレーター：アダム・スミス

「ノーベル賞受賞者が語る未来予想図」

川合 眞紀、ウィリアム・D・フィリップス、アダ・ヨナット
モデレーター：アダム・スミス



「生命の起源 - 私たちはどのようにして、
ここまで来たのだろうか？」

スバンテ・ペーボ



「人間とは何か？」

石黒浩、リチャード・ロバーツ、山極寿一
モデレーター：ジュリー・ジーラス



「多様性とインクルージョンの推進」

浅川 智恵子
インタビュアー：アダム・スミス



「私たちが今、直面する課題」

江間 有沙、ベルナルド・フェリンハ、
アンドリュウ・ファイアー、古澤 明
モデレーター：ジュリー・ジーラス



© Nobel Prize Outreach/Photo: Clément Morin

「持続可能な未来」

吉野 彰



分科会 1「AI がもたらすインパクト」

江間 有沙、ジェフリー・ヒントン*、松尾 豊、
アダ・ヨナット
モデレーター：アダム・スミス



※登壇がキャンセルとなり、過去に録画したコメントを上映

分科会 2「未来のゲノミクスが導くところ」

ジョセフ・エッカー、アンドリュー・ファイアー、
リチャード・ロバーツ、竹山 春子
モデレーター：ジュリー・ジーラス



分科会 1「量子コンピューティングへの期待」

古澤 明、波多野 睦子、ウィリアム・D・フィリップス
モデレーター：アダム・スミス



分科会 2「持続可能な課題解決に向けて」

有村 俊秀、ベルナルド・フェリンハ、川合 眞紀、
エヴァ・オルソン
モデレーター：ジュリー・ジーラス



「理想の未来」

ジョセフ・エッカー、馬奈木 俊介、
エヴァ・オルソン、リチャード・ロバーツ
モデレーター：アダム・スミス

「これからの創造」

ベルナルド・フェリンハ、アンドリュー・ファイアー、
ウィリアム・D・フィリップス、リチャード・ロバーツ、
アダ・ヨナット

モデレーター：アダム・スミス



© Nobel Prize Outreach/Photo: Clément Morin

高円宮妃殿下、レセプションへのご臨席

当日イベント終了後に続いて行われたレセプションにおいて、
高円宮妃殿下ご臨席の栄誉を賜りました。
妃殿下はノーベル賞受賞者の方々や、若手研究者とご
歓談になりました。





有村 俊秀

早稲田大学政治経済学術院 教授、環境・経済研究所 所長

東京大学卒業。筑波大学修士。ミネソタ大学 Ph.D.。専門は環境経済学。上智大学教授、文部科学省学術調査官、パリ政治学院及びジョージメソン大学客員研究員、環境経済・政策学会会長、政府で環境関連各種委員を歴任。環境科学会学術賞、市村清新技術財団・地球環境学術賞等受賞。



浅川 智恵子

IBM Research, IBM Fellow
日本科学未来館 館長

1985 年日本 IBM に入社。工学博士。2009 年 IBM Fellow 就任。2014 年よりカーネギーメロン大学客員教授を兼務。2018 年米 IBM TJ ワトソン研究所に転籍。現在は AI スーツケースの開発を推進。2021 年より日本科学未来館館長を兼務。

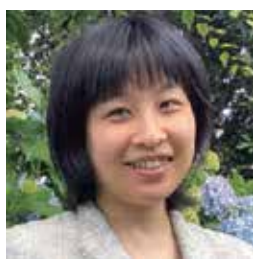


Photo : Christopher

ジョセフ・エッカー

ソーク生物学研究所 教授・遺伝学国際評議会 議長
ハワード・ヒューズ医学研究所研究員

ペンシルベニア州立大学で微生物学博士号取得。スタンフォード大学でのポスドクを経てペンシルベニア大学教授に就任。2000 年に教授としてソーク研究所に着任。また 2011 年よりハワード・ヒューズ医学研究所研究員。



江間 有沙

東京大学東京カレッジ 准教授
理化学研究所革新知能統合研究センター 客員研究員

東京大学で博士号（学術）取得後、京都大学白眉センター特定助教、東京大学未来ビジョン研究センター特任講師等を経て、2023 年より現職。AI・ロボットと社会の関係を研究している。国連の AI に関する諮問委員会メンバーや OECD の 専門家グループ等にも参画。



ベルナルト・フェリンハ

2016 年ノーベル化学賞

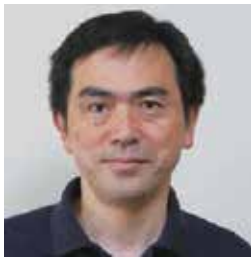
フローニンゲン大学 分子科学教授。有機化学、ナノテクノロジー、不斉触媒を専門とする。分子マシンの研究でノーベル賞受賞。



アンドリュー・ファイアー

2006 年ノーベル生理学・医学賞

スタンフォード大学医学部病理学、遺伝学教授。
カリフォルニア州サンタクララ郡出身。カリフォルニア大学バークレー校、マサチューセッツ工科大学、ケンブリッジ大学で学ぶ。カーネギー研究所（1986-2003）とジョンズ・ホプキンス大学勤務を経て、2003 年よりスタンフォード大学医学部病理学・遺伝学教授。



古澤 明

東京大学大学院工学研究科 教授
理化学研究所量子コンピュータ研究
センター 副センター長

東京大学工学部物理工学科卒業、同
大学院工学系研究科物理学専攻修
士課程修了後、ニコン入社、2000 年
より東京大学工学系研究科物理学
専攻助教授（のち准教授）、2007 年
より同専攻教授。2016 年秋の紫綬褒
章受章。令和 3（2021）年 4 月理化学
研究所量子コンピュータ研究セン
ター副センター長。



波多野 睦子

東京科学大学 理事・副学長
東京科学大学工学院 教授

1983 年より日立中央研究所にて、特
にパワーデバイスの研究開発に取り
組む。1997 年から 3 年間 UC バーク
レー校で客員研究員。2010 年より東
京工業大学にてダイヤモンド量子セ
ンサの研究に従事。総合科学技術・
イノベーション会議議員（兼任）、応
用物理学会元会長、文部科学大臣表
彰。



Photo : Johnny Guatto, Uni. of Toronto

ジェフリー・ヒント

※当日事情により欠席

2024 年ノーベル物理学賞

トロント大学ベクター研究所。
AI 研究の先駆者であり 2024 年のノー
ベル物理学賞受賞者。1970 年ケンブ
リッジ大学実験心理学学士課程卒業
後、1978 年に AI の研究によりエジン
バラ大学より博士号取得。カーネギー
メロン大学教授を経て現在トロント
大学ベクター研究所主任科学顧問。



石黒 浩

大阪大学大学院基礎工学研究科 教授
ATR 石黒浩特別研究所 客員所長

ムーンショット型研究開発制度プロ
ジェクトマネージャー、大阪関西万
博 EXPO2025 テーマ事業プロデュー
サー、AVITA 株式会社代表取締役。
研究分野は人と関わるロボット、ア
バター、アンドロイドサイエンスな
ど。大阪文化賞、シェイク・モハメッ
ド・ビン・ラシード・アル・マクトゥー
ム知識賞などを受賞。



川合 眞紀

大学共同利用機関法人自然科学研究
機構 機構長
科学技術振興機構研究開発戦略セン
ター センター長

東京大学大学院理学系研究科博士過
程修了（理学博士）。自然科学研究機
構長、科学技術振興機構研究開発戦
略センター長を兼務。日本学士院会
員、東京大学名誉教授、理化学研究
所名誉研究員。2017 年紫綬褒章を受
章、2021 年文化功労者に選出。



馬奈木 俊介

九州大学 主幹教授、都市研究センター
長、ユヌス & 椎木 ソーシャル・ビジ
ネス研究センター長

国連「新国富報告書」代表、経産省
産業構造審議会臨時委員、環境省中
央環境審議会臨時委員、第 25 期日本
学術会議会員。日本学術会議「サス
テナブル投資による産業界のインパ
クト」代表などを歴任。



Photo by NUS I-FIM

松尾 豊

東京大学大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻／人工物工学研究センター 教授

2002年東京大学大学院博士課程修了。博士（工学）。スタンフォード大学客員研究員を経て、2019年より、東京大学大学院工学系研究科教授。専門分野は、人工知能、深層学習、ウェブマイニング。



Photo : Anna-Lena Lundqvist

エヴァ・オルソン

チャルマース工科大学（スウェーデン、ヨーテボリ）物理学科 教授

チャルマース工科大学より博士号取得後、IBM トーマス J. ワトソン研究所（米国ニューヨーク州ヨークタウンハイツ）でポスドクを修了。チャルマース工科大学教員、ウプサラ大学（スウェーデン）正教授を経て現在チャルマース工科大学正教授。



ウィリアム・D・フィリップス

1997年ノーベル物理学賞

米国立標準技術研究所所属物理学者
メリーランド大学カレッジパーク校
物理学特別教授。

1970年ジュニアタ・カレッジ卒業
（物理学専攻）。1976年マサチューセツ
工科大学（MIT）で博士号取得後
1978年までポスドク。同年米国立標
準技術研究所（NIST）入所。メリー
ランド大学特別教授を兼任。



スバンテ・ペーボ

2022年ノーベル生理学・医学賞

マックス・プランク進化人類学研究所所長。沖縄科学技術大学院大学教授（アジャнкт）。スウェーデンのウプサラで育ち、ウプサラ大学で博士号を収める。絶滅した人類のゲノムと進化に関する発見によりノーベル生理学・医学賞受賞。



リチャード・ロバーツ

1993年ノーベル生理学・医学賞

ニューイングランド・バイオラボ（マサチューセッツ州イプスウィッチ）最高科学責任者。遺伝子の分断および mRNA のスプライシングの発見によりノーベル生理学・医学賞受賞。



アダム・スミス

ノーベル・プライズ・アウトリーチ
サイエンティフィック・オフィサー

ノーベル・プライズ・アウトリーチ
のチーフ・サイエンティフィック・
オフィサー。研究と学術出版の経験
を持つ。



Photo : Clément Morin

ハンナ・シャーネ

ノーベル財団 エグゼクティブ・ディレクター

2025 年よりノーベル財団エグゼクティブ・ディレクター。スウェーデンの有力ジャーナリストであり、メディア界のトップ経営者。ここ 10 年は Swedish Television の CEO としてデジタル化、スウェーデン発コンテンツの発信、公共放送の改革に尽力。



杉野 剛

独立行政法人日本学術振興会 理事長

独立行政法人日本学術振興会理事長。文部科学省研究振興局長（2020-2021 年）、国立文化財機構常務理事（2017-2020 年）、国立教育政策研究所（2016-2017 年）などを歴任。



竹山 春子

早稲田大学理工学術院 教授

1992 年東京農工大学工学研究科物質生物工学修了。博士（工学）。2007 年 4 月より現職。2020 年よりムーンショットプログラム PM、2023 年より ASPIRE バイオ分野のプログラムオフィサー、2023 年から日本学術会議会員を務める。



山極 寿一

総合地球環境学研究所 所長
前京都大学総長

1952 年東京都生まれ。京都大学理学部卒、理学博士。京都大学大学院理学研究科教授を経て、2020 年まで第 26 代京都大学総長。人類進化論専攻。アフリカ各地で野生ゴリラの社会生態学的研究に従事。国際霊長類学会会長、日本学術会議会長を歴任。



アダ・ヨナット

2009 年ノーベル化学賞

ワイツマン科学研究所 教授。専門はタンパク質の生合成、そしてこの過程を妨げる抗生物質、さらには生命の起源。1970 年代に、イスラエル初の構造生物学研究所を設立。同時に、1986 年から 2004 年の間にはハンプルク（ドイツ）のマックス・プランクリボソーム構造研究ユニットを指揮した。



吉野 彰

2019 年ノーベル化学賞

旭化成株式会社 名誉フェロー。1972 年京都大学大学院修士課程修了後、旭化成入社。1980 年代リチウムイオン電池を発明し、実用的なプロトタイプを完成した。この電池は携帯電話から電気自動車まで幅広く用いられ、情報化社会とクリーンエネルギーの普及に貢献。2019 年ノーベル化学賞を受賞。



ジュリー・ジラス

ストックホルム、カロリンスカ研究所 臨床統合生理学教授

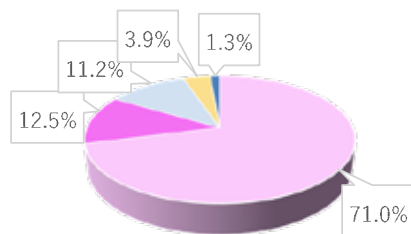
コペンハーゲン大学 教授
ノボルディスク財団基礎代謝研究センター エグゼクティブ・ディレクター

カロリンスカ研究所臨床統合生理学教授。糖尿病患者の体内で阻害されるインスリンシグナル伝達経路の重要なステップを解明した。

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2025 には世界各国から約 900 名が参加しました。また、会場での参加者だけでなく、多くの人インターネット上のライブ・ストリーミングやソーシャル・メディアを通じてこのイベントに参加しました。ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2025 におけるほぼ全ての講演、パネルディスカッションは以下の URL からご覧いただけます。https://www.youtube.com/live/-g_vKw-4wrs

会場の参加者のうち、70.1% は日本から、29.9% は国外からの参加者であり、国際的なイベントとなりました。また、一般参加者のうち、学生、あるいは大学・研究機関教職員の割合は約 58.8% で、分科会における質疑応答などにおいては、積極的な対話への参加がみられました。

参加者総数：889 名



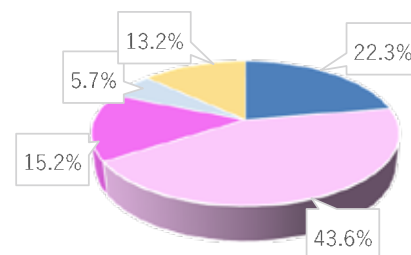
一般参加者	631 名
招待者	111 名
HOPE ミーティング	100 名
登壇者	35 名
プレス	12 名

国内外別参加者数



国内	623 名
国外	266 名

一般参加者属性



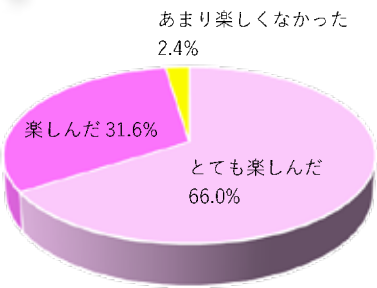
会社員・会社役員	141 名
学生	275 名
大学・研究機関教職員	96 名
公務員	36 名
その他	83 名

国・地域別参加者数

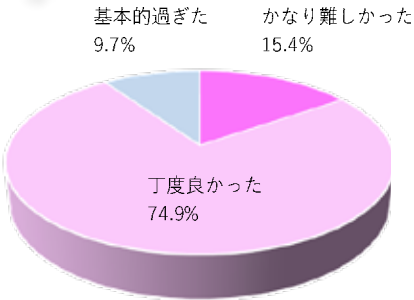
国名	人数	国名	人数	国名	人数	国名	人数	国名	人数
アルゼンチン	2	オーストリア	1	スリランカ	1	ネパール	2	ポーランド	4
イスラエル	9	オランダ	2	セネガル	2	ノルウェー	2	ポルトガル	1
イタリア	3	カナダ	4	タイ	7	パキスタン	2	マレーシア	7
イラン	1	カメルーン	2	台湾	8	ハンガリー	1	南アフリカ	2
インド	24	韓国	16	チェコ	2	バングラデシュ	9	ミャンマー	3
インドネシア	9	ケニア	3	中国	48	フィリピン	5	モンゴル	2
ウクライナ	1	コスタリカ	1	ドイツ	9	ブラジル	3	ルーマニア	1
ウズベキスタン	1	コロンビア	1	トルコ	4	フランス	8		
英国	6	シンガポール	4	ナミビア	1	米国	9		
エジプト	4	スイス	1	日本	623	ベトナム	2		
オーストラリア	1	スウェーデン	21	ニュージーランド	2	ベナン	2		

アンケート結果

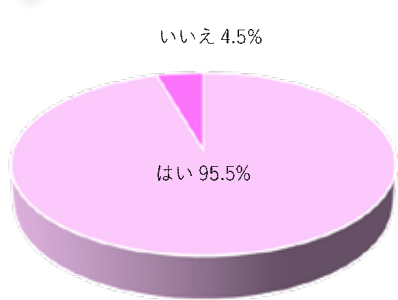
ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2025をお楽しみいただけましたか？



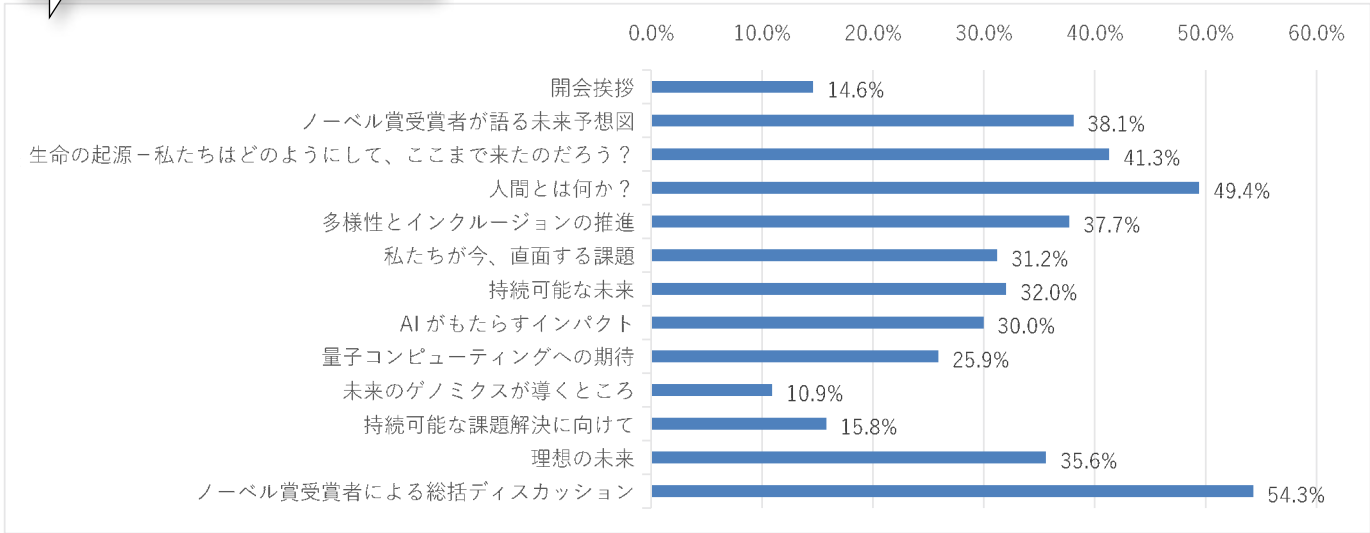
講演やパネルディスカッションなどの内容はいかがでしたか？



またノーベル・プライズ・ダイアログ東京に参加したいですか？



面白かったプログラムは何ですか？
(複数回答可)



プログラムに関するご意見

- ・とても楽しいシンポジウムでした。特に、ノーベル賞受賞者の方々の若い世代への助言・メッセージに感銘を受けました。私は研究者ではありませんが、よい刺激を頂きました。また、基礎研究の重要性を良く理解できました。ありがとうございました。
- ・ノーベル賞受賞者や著名な研究者の方々の話が聞けるととても貴重な会だと思う。未来を担う若者が無料で参加できるこのプログラムを今後も続けて頂きたい。
- ・聴衆から質問できるところが良かったです。
- ・アカデミックな内容だけでなく日本的なパフォーマンスが2つあって面白かったです！海外の方も楽しんでくれたでしょう。
- ・私は研究者ではなく、英語も話せない素人の横浜市民ですが、同時通訳機もあり興味深く参加させていただきました。このような機会に感謝です。楽しかった！！

独立行政法人日本学術振興会

本会は、独立行政法人日本学術振興会法（平成 14 年 12 月 13 日法律第 159 号）に基づき、学術研究の助成、研究者の養成のための資金の支給、学術に関する国際交流の促進、その他学術の振興に関する事業を行うため、平成 15 年 10 月 1 日に設置された文部科学省所轄の独立行政法人です。

本会の前身は、天皇陛下から学術奨励のため文部大臣に下賜された 150 万円により、昭和 7 年 12 月に創設された財団法人日本学術振興会であり、その後、昭和 42 年 9 月に日本学術振興会法に基づき、特殊法人となりました。70 年余にわたり我が国の学術振興を担う中核機関として様々な事業を展開してきましたが、平成 15 年 10 月、業務の弾力化・効率化を図り、研究者や学術研究機関へのサービスの一層の向上をめざして、独立行政法人として設置されました。

日本学術振興会は、我が国の学術振興の中核を担う機関として、科学研究費助成事業などの学術研究への助成や、特別研究員事業などの若手研究者養成を、研究者の自主性と研究の多様性を尊重しながら実施しています。また、世界に張り巡らされた学術関係機関ネットワークの主要な一員として、学術に関する国際交流の促進を積極的に行っています。

さらに近年は、大学改革を支援する事業も実施しており、学術研究の振興と人材育成のための活動を幅広く行う機関として発展を続けています。

日本学術振興会ウェブサイト <https://www.jsps.go.jp/>

ノーベル・プライズ・アウトリーチ

ノーベル・プライズ・アウトリーチは、ノーベル賞を受賞した業績についての知識を社会へ広め、アルフレッド・ノーベルのビジョンや遺産に沿って科学や文学、平和に対する関心を高める活動を行っています。同社は、ノーベル賞の公式デジタルチャンネル、ノーベルプライズコンサート、さらには世界中で開催される、ノーベル賞受賞者出演の示唆に富んだ講演イベントなど、高品質な企画を提供しています。

www.nobelprize.org

X: @NobelPrize

Facebook: www.facebook.com/nobelprize

Instagram: https://www.instagram.com/nobelprize_org/

LinkedIn: <https://www.linkedin.com/company/nobelprize/>

YouTube: www.youtube.com/nobelprize

免責事項：ノーベル・プライズ・アウトリーチはノーベル賞受賞者の選考に直接的又は間接的に関与しません。選考手続はノーベル賞選考委員会によって、厳重かつ機密に取り扱われます。

© Nobel Prize Outreach 2025、Nobelpriset®、Nobel Prize®、the Nobel Prize medal はノーベル財団の登録商標です。

委員長

水本 哲弥	独立行政法人日本学術振興会 理事
-------	------------------

委員

浅川 智恵子	IBM Research, IBM Fellow 日本科学未来館 館長
--------	--

塩見 美喜子	東京大学大学院理学系研究科 教授
--------	------------------

武内 和彦	公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）理事長
-------	---------------------------

竹山 春子	早稲田大学 理工学術院 教授
-------	----------------

蓼沼 宏一	一橋大学 経済学研究科 名誉教授 / 特任教授
-------	-------------------------

長谷川 真理子	独立行政法人日本芸術文化振興会 理事長 総合研究大学院大学 名誉教授
---------	---------------------------------------

波多野 睦子	東京科学大学 理事・副学長 東京科学大学 工学院 教授
--------	--------------------------------

アドバイザー

若宮 淳志	京都大学 理事補 京都大学化学研究所 教授
-------	--------------------------

※所属機関及び職名はノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2025 開催日時点のものです。

ノーベル・インターナショナル・パートナー



ABB は、社会と産業の変革を活性化し、より生産的で持続可能な未来を目指す世界の先端を行くテクノロジーの企業です。ソフトウェアとエレクトリフィケーション、ロボット工学、自動化、モーションポートフォリオと結びつけることで、ABB はテクノロジーの限界を押し広げ、そのパフォーマンスを新たなレベルに引き上げています。130 年以上にわたる卓越した歴史を持つ ABB 社の成功は、100 か国以上の国々で働く約 11 万人の優秀な従業員によって推進されています。



EQT はアクティブオーナーシップ戦略に重点を置いた目的主導型の投資組織です。北欧の伝統とグローバルな考え方を持つ EQT は、多様な地域、セクター、戦略を通して、ほぼ 30 年にわたって一貫して魅力的なリターンを提供してきた実績があります。ヴァレンベリ家の起業家精神と長期所有権の哲学に根ざした EQT の投資戦略は、起業から成熟まで、ビジネス開発のすべての段階をカバーしています。



3,500 人以上の研究者が代替燃料、コネクティビティ、自動化、エレクトリフィケーションなど将来の主要分野の最前線で働いています。その目的は、幅広い能力を維持し、開発し続けることで、スカニアが自動車業界で主導的な地位を維持することです。



ステグラは、鉄鋼を始めとする、重工業の脱炭素化を加速させるという使命を担っています。製鋼プロセスで石炭の代わりにグリーン水素を使用することで、従来の製鋼と比較して二酸化炭素排出量（CO2）が最大 95% 削減されます。2030 年までに、ステグラはスウェーデン北部のボーデン市にある完全に統合され、デジタル化された持続可能な工場で、年間 500 万トンのグリーン鋼を生産する予定です。ステグラは、従業員、顧客、投資家、そして地球のために、持続可能性を中核とするインパクトのある企業を構築しています。

特別スポンサー



住宅分譲・賃貸事業、他社物件の販売受託事業、新規事業（リゾート住宅事業、海外事業など）



島津製作所は、「科学技術で社会に貢献する」を社是として事業を展開し、2025 年には創業から 150 年を迎えます。当社は、「人の健康」「安心・安全な社会」「産業の発展」の事業領域で、世界中のパートナーとともに革新的な製品・サービスを創出し、より豊かな社会の構築に貢献しています。

後援：文部科学省、外務省、横浜市、スウェーデン大使館
寄附：櫻井 洸太

広報活動

プレスリリース 4 件、J S P S ウェブサイト 5 件、J S P S メールマガジン 11 件、S N S (Facebook 4 件・X 27 件)、JSPS Researchers Network 5 件、LinkedIn 5 件ほか

プレスリリース

第 1 回 2024 年 10 月 22 日 特設ウェブサイト開設のお知らせ
第 2 回 2024 年 12 月 17 日 参加登録受付開始
第 3 回 2025 年 2 月 4 日 取材登録について
第 4 回 2025 年 2 月 28 日 高円宮妃殿下レセプション御臨席

JSPS MONTHLY (学振便り)



◇ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2025 広告協賛・寄附のお願い

2024 年 6 月号～2025 年 2 月号

◇ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2025 開催告知

2024 年 11 月号～2025 年 3 月号

◇ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2025 開催報告

2025 年 4 月号

JSPS Researchers Network・LinkedIn



2024 年 10 月 22 日 開催告知

2024 年 12 月 5 日 パネリスト情報・プログラム公開

2024 年 12 月 17 日 参加登録受付開始

2025 年 2 月 13 日 登録締切

2025 年 3 月 17 日 開催報告

ヨコハマよみうり



2025 年 1 月 5 日発行 参加登録受付開始

JSPS ウェブサイト

2024 年 5 月 24 日 広告協賛・寄附のお願い

2024 年 10 月 22 日 特設ウェブサイト開設

2024 年 12 月 17 日 参加登録受付開始

2025 年 2 月 13 日 参加登録締切

2025 年 3 月 27 日 開催報告

JSPS Facebook

2024 年 10 月 22 日 開催告知

2024 年 12 月 19 日 参加登録受付開始

2025 年 2 月 13 日 参加登録締切

2025 年 3 月 17 日 開催報告

JSPS X

2024 年 10 月 22 日 特設ウェブサイト開設

2024 年 12 月 5 日 パネリスト情報・プログラム公開

2024 年 12 月 18 日 参加登録受付開始

2025 年 1 月 14 日～2 月 10 日 パネリスト紹介 (20 名)

2025 年 2 月 5 日 協賛企業追加のお知らせ

2025 年 2 月 13 日 参加登録締切

2025 年 3 月 4 日 展示ブース紹介

2025 年 3 月 19 日 開催報告

駅広告

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2025 参加登録
受付開始

・みなとみらい線 2 駅

・東京メトロ 10 駅

・東横線 11 駅



みなとみらい線
(みなとみらい駅)

東京メトロ
(四ツ谷駅)

東横線 (蒲田駅)

文教ニュース

2024年11月25日号

文教速報

2024年11月22日号

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京25
来年3月開催 ノーベル賞受賞者ら横浜に集結

日本学術振興会は、ノーベル・プライズ・アウトリーチAB（ノーベル財団広報部門）との共催により、ノーベル賞受賞者らが市民と対話する公開シンポジウム「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2025」を、来年3月9日(日)に横浜市内のパシフィコ横浜会議センターで開催する。午前10時から午後4時の予定。

2019年にノーベル化学賞を受賞した吉野彰博士をはじめ、国内外のノーベル賞受賞者や著名研究者らが「The Future of Life 生命の未来」先端技術とわたしたちのこれから」をテーマに、私たちを取り巻く世界の様相への理解を深めた上で、科学技術が生命の未来をどのように変えていくかについて科学的・社会的側面から迫る。

参加は無料。12月18日(水)から、特設ウェブサイト（<https://www.nobelprize.org/future-of-life-jp>）に参加受付予定。先着順。

ノーベル賞受賞者ら横浜に集結

来年3月開催 ノーベル・プライズ・ダイアログ東京25

日本学術振興会は、ノーベル・プライズ・アウトリーチAB（ノーベル財団広報部門）との共催により、ノーベル賞受賞者らが市民と対話する公開シンポジウム「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2025」を、令和7年3月9日(日)に、横浜市内のパシフィコ横浜会議センターで開催する。午前10時から午後4時の予定。

2019年にノーベル化学賞を受賞した吉野彰先生をはじめ、国内外のノーベル賞受賞者や著名研究者らが「The Future of Life 生命の未来」先端技術とわたしたちのこれから」をテーマに、私たちを取り巻く世界の様相への理解を深めた上で、科学技術が生命の未来をどのように変えていくかについて科学的・社会的側面から迫る。

参加は無料。12月18日より、特設ウェブサイト（<https://www.nobelprize.org/future-of-life-jp>）に参加受付予定。先着順。

文教ニュース 2025年3月24日号

各国のノーベル賞受賞者を迎えて

日本学術振興会 ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2025 開催

日本学術振興会はノーベル・プライズ・アウトリーチAB（ノーベル財団広報部門）と共催で3月9日、「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2025」をパシフィコ横浜会議センターで開催した。

ノーベル・プライズ・ダイアログは、国内外のノーベル賞受賞者や著名研究者等が、社会にとって重要な問題を語り合う、参加費無料の公開シンポジウムで、広く一般に、科学技術・学術への理解を深めてもらうことを目的とする。日本での開催は6回目。当日は、日本学術振興会特別研究員事業の採用者（約90名）の支援を受けて研究する若手研究者（約90名）の参加も予定されている。

名とH O P E ミーティング（アジア・太平洋・アフリカ地域等から選抜された優秀な大学院生等）を対象とする同主催の国際交流プログラム）約100名を含む、1000名近い参加者が国内外から来場した。

冒頭、杉野剛日本学術振興会理事長、ハン・ディレクターによる開会挨拶、あべ俊子文部科学大臣による来賓挨拶が行われた。

「The Future of Life 生命の未来」先端技術とわたしたちのこれから」をテーマに、国内外のノーベル賞受賞者7名を含む22名のパネリストが登壇した。未来の予想について、来日したノーベル賞受賞者5名、名が登壇し、生命の未来における「わたしたちのこれから」について、議論が行われた。

最後の総括セッションでは、来日したノーベル賞受賞者5名、名が登壇し、生命の未来における「わたしたちのこれから」について、議論が行われた。除き、次のURL（<https://www.youtube.com/nobelprize>）から視聴可能。



総括ディスカッションを行う（左から）モデレーターのスミス、ヨナット、フェリンハ、ファイアー、フィリップス、ロバーツ氏。©Nobel Prize Outreach/Photo:Clément Morin

登壇したノーベル賞受賞者
1993年ノーベル生理学・医学賞 リチャード・ロバーツ氏 （ニューヨーク・バイオラボ 〈マサチューセッツ州イプスウィッチ〉 最高科学員任者）
1997年ノーベル物理学賞 ウィリアム・D・フィリップス氏 （米国立標準技術研究所所属物理学者、 メリーランド大学 カレッジパーク校物理学特別教授）
2006年ノーベル生理学・医学賞 アンドリュース・ファイアー氏 （スタンフォード大学医学部病理学、遺伝学教授）
2009年ノーベル化学賞 アダ・ヨナット氏 （ワイツマン科学研究所教授）
2019年ノーベル化学賞 吉野彰氏 （旭化成両名客フェロー）
2022年ノーベル生理学・医学賞 スパンデ・ペーボ氏 （マックス・プランク進化人類学研究所所長、 沖縄科学技術大学院大学教授〈アジャント〉）
※ 2024年ノーベル物理学賞のジェフリー・セントン氏（トロント大学ベクター研究所主任科学顧問）はオンラインで登壇予定だったが、事情により欠席した。

朝日学生新聞・朝日中高生新聞 (Web・新聞)

Web 2025 年 4 月 24 日掲載



サイエンスポータル

「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2025」参加受付開始
2024 年 12 月 11 日掲載

朝日学生新聞・朝日中高生新聞 (Web・新聞)

新聞記事 2025 年 4 月 24 日号



サイエンスポータル

「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2025」開催
2025 年 4 月 23 日掲載レポート
ノーベル賞受賞者が語る生命の未来へ先端技術「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2025」開催2025.04.23
滝山廣代 / サイエンスポータル編集部

ノーベル賞歴代受賞者が集い、自身の研究の講演や、これからの科学について議論を交わすイベント「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2025」が3月9日、横浜市で開催された。今回の副題は「生命の未来へ先端技術とわたしたちのこれから」。人間らしさと科学のかかわり、遺伝子に関する技術の進歩、コンピューターや生成AI（人工知能）など多岐に渡るテーマについて研究者たちが話し合った。（カッコ内はノーベル賞受賞年と分野）



ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2025では、ノーベル賞受賞者らからAIとヒトとの違いなどについて討論した（2025年3月、横浜市のパシフィコ横浜）



ポスター（A2） 日・英



チラシ（A4） 日・英



特設サイト（日・英）



JSPS ウェブサイト（日・英）



当日配布プログラム（130 × 210mm）日英併記 16 頁



バナー



ノーベル・プライズ・ダイアログ東京は、ノーベル・メディア AB（当時）が 2012 年から毎年ノーベル賞授賞式の前日にスウェーデンで開催している一般向けの公開シンポジウムである「Nobel Week Dialogue（ノーベル・ウィーク・ダイアログ）」を我が国で実施しているものです。ノーベル財団側から日本での開催の可能性について打診があり、その後同財団や関係機関等との協議の結果、2015 年にスウェーデン国外では初めて、日本において日本学術振興会及びノーベル・メディア AB の共催により実現に至りました。

2015 年開催の成功を受けて 2017 年、2018 年、2019 年、2022 年と回数を重ね、2025 年に 6 回目のノーベル・プライズ・ダイアログ東京を開催しました。

過去の日本開催

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2015



The Genetic Revolution and its Future Impact 生命科学が拓く未来

ゲノム研究の医療への応用、遺伝子組み換え食品の用途と危険性など、生命科学に関する最先端の研究成果やその社会的インパクトについて議論しました。

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2017



The Future of Intelligence 知の未来～人類の知が切り拓く人工知能と未来社会～

人工知能 (AI) 技術の発展が科学や産業、医療、物流などの経済社会に及ぼす影響について、産業界や AI 研究の第一人者等が集い、意見を交わしました。

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2018



The Future of Food 持続可能な食の未来へ

人口増加による食料限界が差し迫る中、歴史と文化の背景を踏まえながら、食の持続的発展に向けた最先端の研究の取り組みについて議論するとともに、今後の社会への影響を探りました。

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2019



The Age to Come 科学が拓く明るい長寿社会

「人口高齢化を重視すべき理由」の導入講演を皮切りに、長寿社会における生き方や老化防止にかかる最先端の研究、高齢者のための最新技術などが紹介され、意見を交換しました。

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2022



Water Matters

水から考える持続可能な未来

次の世代のために地球の水を賢く管理するという使命に挑むにあたり創造性を最大限に発揮する方法について話し合いました。

商標について

本誌上に掲載している名称、表題、建物画像、トレードマーク、サービスマークおよびロゴは、ノーベル財団の登録商標または未登録商標です。これには、ノーベル賞® (Nobel Prize®)、ノーベルメダル® 意匠 (the Nobel Medal® design mark)、Nobelprize.org®、ノーベル・プライズ・アウトリーチ® (Nobel Prize Outreach®)、ノーベル博物館® (Nobel Museum®)、ノーベル博物館® (Nobelprismuseet®)、ノーベル・シンポジウム® (Nobel Symposia®)、ノーベル・ウィーク・ダイアログ (Nobel Week Dialogue) およびノーベル・プライズ・ダイアログ (Nobel Prize Dialogue) (合わせて以下「ノーベル財団商標」という) が含まれますが、これらに限定されません。ノーベル財団は、これらの商標の使用許可を最も厳しく制限しています。利用者は、ノーベル財団からの使用許可をあらかじめ書面で取得しない限り、ノーベル財団の商標を使用することはできません。また、本サイト上には、第三者の商標を掲載することもあります。利用者は、それらの商標の所有者からの使用許可をあらかじめ書面で取得しない限り、当該商標を使用することはできません。

本誌上のいかなる記載も、ノーベル財団の商標を使用する権利または許可を明示的または黙示的に付与するものではなく、また本サイト上のいかなる記載も、JSPS が第三者商標の所有者に代わって権利または許可を付与する権限を有すると解釈できるものではないことを、利用者は認識し、承認したものとします。なお、JSPS は、商標を使用する権利が有効なものであるかどうかを確認する責任も、利用者のために当該権利を保証する責任も負わないものとします。そのため、JSPS は、本サイト上に掲載された情報を除き、住所、電話番号及びその他の連絡先を、商標使用の権利を有する第三者には提供しません。

著作権について

本誌上に掲載された写真、画像、図表、デザインおよび文書等の全部または一部（以下「本コンテンツ」という）はすべて、ノーベル・プライズ・アウトリーチまたは JSPS の所有物、または法令もしくは第三者の同意に基づいて使用しているものです。

利用者は、JSPS からの使用許可をあらかじめ書面で取得しない限り、本コンテンツの複製、頒布、表示、送信、改変、翻案、もしくは本コンテンツの派生著作物を作成すること、またはその他の方法で使用することはできません。

